





様式第 8 号 (第 6 条関係)

決 裁	議 長	局 長	次 長	係 長	係 員
					

派遣承認要求書

令和 5 年 4 月 1 1 日

栗原市議会議長 殿

栗原市議会議員

尾形勝通










下記のとおり議員を派遣したいので、承認されるよう要求します。

記

日 時	令和 5 年 5 月 2 3 日 (火) 05 時 30 分から 令和 5 年 5 月 2 5 日 (木) 20 時 30 分まで
派 遣 先	①那珂川市議会「福岡県那珂川市西隈 1 丁目 1 番 1 号」 ②豊後高田市「昭和の町」「大分県豊後高田市新町 989-1」 ③豊後高田市議会「大分県豊後高田市是永町 39 番地 3」 ④北九州エコタウンセンター「福岡県北九州市若松区向洋町 10-20」
派 遣 目 的	①那珂川市の「五ヶ山クロス」等の、一般企業の指定管理での運営方法や、指定管理先の決定方法。キャンプ場や「、その他の施設の規模や内容等を聞き、今後の栗原市キャンプ場構想への参考にするため。 ②「昭和の町」は商店街に賑わいを取り戻すために始められた町おこしの成功例として全国から注目されて居り、栗駒六日町に街並みが似ており、地域おこしの成功例を視察するため。 ③「住みたい田舎」11 年連続でベスト 3 入りの豊後高田市での「移住・定住政策」や、全国トップレベルの「子育て支援」を本気で目指している施策の内容を聞き、栗原市での各種事業の参考とするため。 ④今後課題の「あらゆる廃棄物をゼロにする事 (ゼロ・エミッション) を目指す、資源循環型社会の構築を図るための事業内容の研修と工場視察。
経 費	旅費 126,010 円 その他経費・視察先資料代・視察先お土産代 1,200 円
派 遣 議 員 氏 名	尾形勝通
議 長 依 頼 文 の 要 否	○要 否
備 考	同行参加者、市民くりはら所属会員

※ その他資料があれば添付願います。

様式第9号 (第6条関係)

決 裁	議 長	局 長	次 長	係 長	係 員
					  

自家用車による出張計画表

令和5年5月12日

栗原市議会議長 殿

会派に属さない議員

尾形 勝通



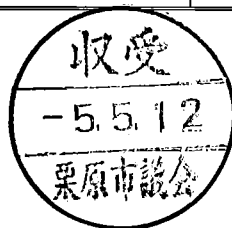
下記のとおり自家用車による出張をしたいので、承認されるよう要求します。

記

日 時	令和5年5月23日～令和5年5月25日
出 張 先	福岡・大分・北九州
目 的	行政視察（栗原市役所から仙台空港までの往復）
出 張 議 員	尾形 勝通
自家用車所有者	佐藤 千昭

行程明細

出発地～行先	利用道路	距離(km)	車 賃	有料道路代	駐車場代
5/23 栗原市役所～仙台空港	東北道他	85	567	427	
5/25 仙台空港～栗原市役所	東北道他	85	567	427	
	小 計	170	1,134 円	854 円	500 円



出張雑費	
総 計	2,488 円...

## 栗原市議会視察行程表

日程：令和5年05月23日(火)～05月25日(木)

月日	行 程	発	着	摘 要
05/23 (火)	栗原市役所 ～ 仙台空港	5:00	6:45	自家用車乗り合わせ
	仙台空港 ～ 福岡空港	7:35	9:45	ANA3110便
	福岡空港 ～ 博多駅	10:40	10:45	福岡市地下鉄空港線・筑前前原行
	博多駅 ～ 博多南駅	11:09	11:17	J R博多南線 博多南行
	博多南駅 ～ 那珂川市役所	12:30	12:50	那珂川市役所にて送迎
	【行政視察(机上調査)】 「五ヶ山クロスについての説明」	13:00	13:20	那珂川市役所 地域づくり課 TEL:092-468-8729
	【行政視察(現地視察)】 「五ヶ山クロス現地視察」	13:40	14:50	〃
	五ヶ山クロス ～ 博多南駅	14:50	15:20	那珂川市役所にて送迎
	博多南駅 ～ 博多駅	15:42	15:50	J R博多南線 博多行
ホテル(博多泊)	16:00		アパホテル&リゾート(博多駅東) 福岡県福岡市博多区博多駅東1丁目18番1号 TEL:092-477-9011	
05/24 (水)	博多駅 ～ 宇佐駅	9:21	10:59	J R鹿児島本線 特急ソニック11号 大分行
	宇佐駅 ～ 豊後高田市	11:20	11:50	タクシーにて移動
	豊後高田市・昭和の町視察	12:00	13:20	「昭和の町」視察
	昭和の町 ～ 豊後高田市役所	13:30	13:50	タクシーにて移動
	【行政視察(机上調査)】 「移住・定住・子育て支援」	14:00	15:00	豊後高田市役所 地域活力創造課 TEL:0978-25-6392
	豊後高田市役所 ～ 宇佐駅	15:20	15:50	バス 大分交通
	宇佐駅 ～ 小倉駅	16:49	17:37	J R日豊本線 特急ソニック44号 博多行
	ホテル(小倉泊)	18:00		J R九州ステーションホテル小倉 北九州市小倉北区浅野1丁目1番1号 TEL 093-541-7111

## 栗原市議会視察行程表

日程：令和5年05月23日(火)～05月25日(木)

月日	行 程	発	着	摘 要
05/25 (木)	小倉駅 ～ 戸畑駅	8:37	8:45	J R 鹿児島本線 特急ソニック8号 博多行
	戸畑駅 ～ 北九州市 エコ タウンセンター	9:00	9:20	タクシーにて移動
	【行政視察(現地視察)】 「北九州市エコタウンセンター」	9:30	11:50	福岡県北九州市若松区向洋町10番地20 TEL：093(752)2881
	戸畑駅 ～ 小倉駅	13:24	13:33	J R 鹿児島本線 区間快速 門司港行
	小倉駅 ～ 博多駅	14:14	14:30	J R 山陽新幹線 のぞみ21号 博多行
	博多駅 ～ 福岡空港	15:19	15:25	福岡市営空港線 福岡空港行
	福岡空港 ～ 仙台空港	16:30	18:15	ANA3117便
	仙台空港 ～ 栗原市役所	19:00	20:15	自家用車乗り合わせ
	解散			



様式第10号（第7条関係）

視察研修結果報告書

令和5年5月31日

栗原市議会議長 高橋 渉 殿

氏名 尾形勝通 (印)

視察・研修した結果について、下記のとおり報告します。

記

1 期 間 令和5年5月23日～25日

2 視察研修先

- ① 福岡県 那珂川市役所（地域づくり課）
- ② 大分県 豊後高田市「昭和の町」
- ③ 大分県 豊後高田市役所（地域活力創造課）
- ④ 福岡県 北九州市「北九州市エコタウンセンター」

3 目 的

- ① 那珂川市様の「五ヶ山クロス」等の、一般企業の指定管理での運営方法や、指定管理先の決定方法。キャンプ場や、その他の施設の規模や内容等を聞き、今後の栗原市キャンプ場構想への参考にする為。
- ② 「昭和の町」は商店街に賑わいを取り戻す為に始められた町おこしで、地方都市再生の成功例として全国から注目されており、栗駒六日町に街並み等が似ており、地域おこしの成功例を視察する為。



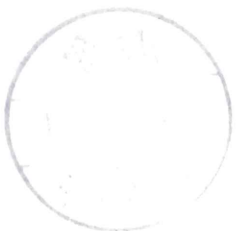
- ③ 「住みたい田舎」11年連続でベスト3入りの豊後高田市様での「移住・定住政策」や、全国トップレベルの「子育て支援」を本気で目指している施策の内容を聞き、栗原市での各事業の参考にする為。
- ④ 今後課題の「あらゆる廃棄物を他の産業分野の原料として活用し、最終的に廃棄物をゼロにする事（ゼロ・エミッション）」を目指す、資源循環型社会の構築を図る為の事業内容の研修と工場視察。

4 調査研究内容

別紙の通り。

5 参加議員

尾形勝通



## 調査研究内容

### 1 福岡県 那珂川市役所（地域づくり課） （5月23日）

（福岡県那珂川市西隈1丁目1番1号）

栗原市では栗駒山麓にキャンプ場の計画があり、栗駒山観光振興と言ったとなった、キャンプ場の建設はどうあるべきかを研究するため当地を視察した。

「五ヶ山クロス」等の、一般企業の指定管理での運営方法や、指定管理先の決定方法。キャンプ場や、その他の施設の規模や内容等を聞き、今後の栗原市のキャンプ場構想の参考にする為に訪問した。搭乗予定の航空機の欠航や遅延の為に、那珂川市に到着する時間が大幅に遅れ、ご迷惑をお掛けしてしまった。

那珂川市議会議長の高原議長、那珂川市議会事務局の米沢事務局長にご対応頂いた。到着時間が遅れたので、那珂川市役所での歓迎セレモニーと机上調査は行わず、直接現地に案内され、キャンプ場の内容を1時間半ほど伺った。

「地域づくり課、観光・まちづくり担当」の高木係長他、5名の職員により、メンバー指定管理でのキャンプ場の運営方法や内容、施設の規模や経営方針等を現地にてご説明頂いた。メンバーとの指定管理期間は5年間で、公設民営化での運営方法となっているとの事だ。一般企業への指定管理の委託については、効果的にアウトドアの知識を活かした運営に取り組む必要があるので、アウトドアに関する総合的な情報、知識、企画、運営力を持つ企業であり、キャンプ場の設計にも関わる事で、施設の性格や機能等を熟知し、設置の目的の達成及び、事業効果が期待出来ると判断し、非公募で株式会社メンバーホールディングスを選定したとのお話だ。直営ではないので財政的リスクは無く、自然災害で発生した破損等については市がリスクを負う事になっているとの事だ。

公設民営化での収支だが、現在5年目であるが利用者からも認知されており赤字は無く、今のところは順調に推移している状況で、平成31年度の利用者は25,165人、売上は5,800万弱だったのが、令和4年度は31,124人で売り上げも7,100万程とコロナ過でも順調に売上を伸ばしている状況だ。アウトドアを熟知しているメンバーが運営を行う事で、直営では手の届かない部分まで対応していてキャンプ場に必要な物は、物販をはじめアメニティ品やレンタル品など、質の高い物を提供できているとの事で、市役所にキャンプ場についてのクレームは1件も無いとのお話だった。栗原市でのキャンプ場構想にも、アウトドアを熟知している企業との提携が、公設民営化でのキャンプ場経営の成功の鍵になるのではと感じた。運営先・指定管理先の選定が一番重要だと感じた。



## 2 大分県 豊後高田市「昭和の町」 (5月24日)

(大分県豊後高田市新町 989-1)

栗原市には昭和の商店街と令和の新興商店街の顔をあわせもつ栗駒六日町があるが、昭和の商店街を復活させ観光振興にも貢献している当地を視察した。

「昭和の町」は商店街に賑わいを取り戻す為に始められた町おこしで、地方都市再生の成功例として全国から注目されており、栗駒六日町に街並み等が似ており、地域おこしの成功例として現地を視察する。

観光まちづくり株式会社が運営する「昭和ロマン蔵」を中心に、昔ながらの商店街とのコラボで、懐かしい昭和の風景を今に生かし、昭和の商店、学校、駄菓子屋、レトロ自動車、ボンネットバス等、昔懐かしい情景が今も残る素敵な街だ。

総延長 550mの通りには転々と立ち並ぶ「昭和の店」そのお店を一軒一軒訪ねて歩く観光客が多く、土日にはかなりの人出とのお話だった。

昭和の町の説明をガイドさんをお願いして、町を散策したが、昔懐かしい「給食」を食べられる食堂や、昭和時代の値段そのままの洋食屋さんなど、驚くお店が沢山あった。手作りアイスクャンデーやコロケ等も有名らしく、皆さん食べ歩きをしながら散策するとのお話だった。通りには昭和8年に建てられた和風づくりの元、大分銀行・高田信用組合等の金融機関の建物も残り昭和にタイムスリップした感覚になった。

官民一体となつての地域づくり、とても素晴らしい施策だと感じた。一概に真似が出来る事では無いが、商店街の活性化や、商店街のこの先の方向性など、栗原市にも色々な事で参考になると感じてきた。「おかえりなさい。思い出の町へ。」と言う昭和の町のキャッチフレーズ、まさしく昭和生まれの方には昔の情景が蘇ってきそうな町で、訪れていた観光客の皆さんがみんな笑顔で居たのが何よりの成功の証拠ではないかと感じた。

そのお店の一件は焼き芋屋さんで、移住定住で豊後高田市に来た方で、何故に豊後高田市？との問いには「文句が思いつかない程に素敵な街だから」とのご返答でした。

### 3 大分県 豊後高田市役所（地域活力創造課） （5月24日）

（大分県豊後高田市是永町39番地3）

栗原市は著しい少子化に直面し、喫緊の課題は若者定住、移住政策を協力を推し進める事と認識しており当地の子育て支援政策の本質を研究すべく、現地視察した。

「子育て支援」を本気で目指している施策の内容を聞き、栗原市での各事業の参考になるはずであると確信し研修に望んだ。

豊後高田市議会事務局長の田中氏と庶務係長の黒田氏にご対応頂き、地域活力創造課の担当職員から丁寧なご説明を頂いた。平成17年に一市二町が合併して現在の豊後高田市になり、令和5年4月末の人口は22,000人程の市で、高齢化率は38%とのお話だ。栗原市に比べると人口は約三分の一、高齢化率はかなり低い市だと感じた。

豊後高田市の魅力として「山・里・街・海・温泉」と大きく分けて5つがあり、それぞれを分かり易く解説頂いた。山では国宝 富貴寺大堂や夷耶馬等、山岳信仰等があり、里では「田染荘小崎の棚田の農村風景」。街では「昭和の町」、海では真玉海岸の「日本夕陽百選」や長崎鼻の「恋結ぶ鐘」等の恋叶ロード。温泉では、6つの泉質が楽しめる「にさき六郷温泉」などがあるとのお話だ。

50年間で20,000人の人口減ではあるが、現在は若干の歯止めが掛かっている状況との事だ。転入者と転出者の推移では、10年間で629人の社会増で令和4年は148人の社会増との事で驚いた。年齢階層別の人口増減率も20歳前半を除き広い世代で流入超過を実現していて、移住による社会増の効果が表れているとの事だ。市の支援策を活用した移住者実績も令和4年度は302人と驚く人数になっている。4年連続で300人を超える移住者とは栗原市では考えられない。

市での支援策が凄い。引っ越しには「いらっしやい引っ越し支援金」や「ウエルカム未来の高田っ子応援金」「孫ターン奨励金」「愛ターンお嬢さん奨励金」「女子ターン奨励金」住まいには「就労家賃応援金」「お帰りなさい住宅改修事業補助金」「ハッピーマイホーム新築応援金」「高齢者・子育て世代リフォーム支援事業補助金」などなど至れり尽くせりで移住者確保に力を入れている。

子育て支援も充実している。全国トップレベルの子育て支援と銘打っているのも頷ける。高校生までの医療費無料、中学生までの給食費無料、保育園保育料・幼稚園授業料無料、妊産婦医療費無料などなど、栗原市でも行ってはいるが、それにも増しての充実ぶりだ。教育支援も17年連続大分県内「トップクラス」の学力で、「更なる子育て・教育支援」では子育て応援誕生祝い金が最大で200万円頂けるとの事だ。第5子に至っては6歳になるまで毎年祝い金が贈られ、支給合計は200万円になる。この原資にはふるさと納税を充てて、一般財源からは1円も利用していないとの事でまたまた驚きだった。ふるさと納税額も令和4年度は4億7千万円との事で、ここでも栗原市との違いを

実感した。住宅施策でも色々な施策があり、移住者が移住しやすい環境が整っていると感じた。定住促進無償宅地制度もあり、市の分譲地が無償で手に入る制度もあり。土地代が無料なら、若い世代には嬉しい事で、他から移住して新築し定住する率も高いのが分かる。予算や原資の違いはあるが、補助金の種類、金額、施策の数についても真似が出来る事は取り入れて、人口減に歯止めを掛けて高齢化率も下げ、移住して定住して貰えるように取り組まないといけないと感じた。

#### 4 福岡県 北九州市「北九州市エコタウンセンター」 (5月25日) (北九州市若松区向洋町10番地20)

栗原市の環境政策は20年前の自治体と替わっていないと思料される、SDGsの現在、将来の自治体環境政策はいかにあるべきかを探るため当地を現場視察した。

今後課題の「あらゆる廃棄物を他の産業分野の原料として活用し、最終的に廃棄物をゼロにする事(ゼロ・エミッション)」を目指す、資源循環型社会の構築を図る為の事業内容の研修と工場視察に伺った。北九州エコタウンセンターの垣迫次長にご説明を頂き、机上説明と株式会社ウエルクリエイト様を視察させて頂いた。エコタウン事業は、ある産業から出る全ての廃棄物を新たに他の分野の原料として活用し、あらゆる廃棄物をゼロにする事を目指し、先進的な環境調和型のまちづくりを推進する目的で創設されたものだ。北九州では近代化の幕開けと同時に、1960年代には海は真っ赤に染まり、空は煤煙で覆われて青空が見えない深刻な産業公害問題をもたらした。

公害問題を克服した北九州では、その経験を活かした環境国際協力に取り組み開発途上国の環境改善に取り組んでいるとの事だ。幾つかの地区に分かれて、風力発電事業や、様々なリサイクル事業の会社が立ち並び、企業・行政・大学の連携によって、最先端の廃棄物処理技術や、リサイクル技術などを実証的に研究する期間を集積し、環境エネルギー関連技術開発拠点を目指しているとの事だ。

食品廃棄物リサイクル事業では、株式会社ウエルクリエイト、三笠部長より現場での詳しいご説明を頂いた。この工場では食品工場・病院・自治体などの生ごみを発生現場で一次発酵した物及び、市内事業所の生ごみを収集し、完熟堆肥にリサイクルした物を農家等に販売しているとのお話だった。発酵時に出るすえた酸の匂いが充満する施設で、マスクをしていても鼻にツンと来る匂いだった。パッカー車に満載の野菜くずを、工場のプラントに入れて玉砕し脱水、発酵させて堆肥になるまでの一連工程を見学させて頂いた。堆肥になると異臭もせず、乾いた麦のような香りに変化していた。堆肥価格もトン当たり1万円程とお手頃で、農家や販売店からは喜ばれているとのお話だった。資源循環型社会の構築は大事だ。官民一体となって環境改善に取り組んで行かなければと思った。エコタウン事業のこれまでの成果は、事業数26事業。実証研究数は62研究。雇用者数は約1,000名との事で、2021年時点で総投資額は863億円になるとの事だ。